

[概要]

近年、日本では人口減少が年々深刻化している。人口減少が深刻化している中で日本全体では東京一極集中と呼ばれる都心回帰が続いており人口移動統計には大きな関心が寄せられている。特に、年齢階級別人口移動は日本国内の人口移動の構造を解き明かす重要なデータであり、住民生活において重要な部分を示すもので地域によって特徴がある。年齢階級別人口移動を分析することで人々がどのような年齢でどこに移動し、どのような生活をしているか推測できる。本稿では新潟県、富山県、石川県、福井県の北陸4県を対象地域とする。北海道や東北地方を対象地域として取り上げた先行研究の調査手順に沿って研究を進める。本稿の目的は北海道や東北地方と比較し、北陸地方の年齢階級別人口移動の一般的特徴と中心都市を中心とする関係圏の特徴について明らかにする。若年移動では各県少数の中心都市が広い関係圏を形成している。壮年移動と中年移動では若年移動の中心都市に加え新たな中心都市が追加されたため若年移動と比べ狭い関係圏が形成されている。後期高齢者移動では人口規模ではなく周辺都市との関係性が強い都市が中心都市となることが明らかとなった。また、北陸地方全体の特徴としては各市町村間の人口移動が県境を超えることはほとんどないことが分かった。

キーワード：人口移動の関係圏，北陸地方